



南葵音楽文庫ミニレクチャー

あるヴァイオリニストの「音楽の捧げ物」

E. ジンバリスト 《日本の調べによる即興曲》

篠田大基

2019年7月27日（土）11：00

和歌山県立図書館 南葵音楽文庫閲覧室

Zimbalist, Efrem. *Improvisation on a Japanese Tune*. New York: G. Schirmer, 1924.

Score, 7p., 31cm + Solo, 1p., 31cm. (収蔵番号 3G2.3/11.15)

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

<https://www.lib.wakayama>

[-c.ed.jp/nanki/](https://www.lib.wakayama)

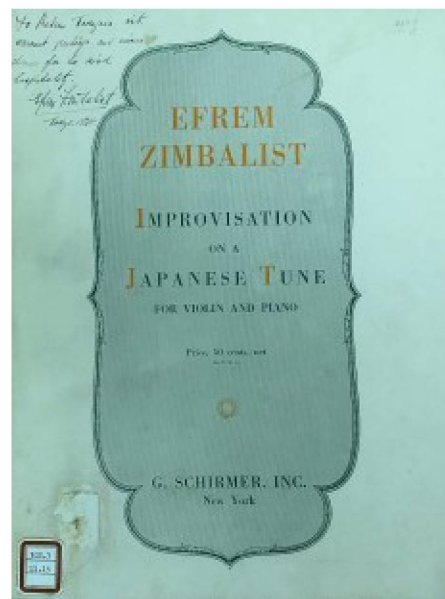


楽譜タイトルページに作曲者のサイン

“To Madame Tokugawa with / warmest greetings
and sincere / thanks for her kind / hospitality. /
Efrem Zimbalist / Tokyo. 1924.”



エフREM・ジンバリストと
妻のソプラノ歌手アルマ・グルック



エフREM・ジンバリスト（1890～1985年）はロシア出身のヴァイオリニスト。名教師として知られるレオポルト・アウアーに師事。1911年よりアメリカ在住。1922、24、27、30、32、35年来日。1928年よりカーティス音楽院で後進の指導にあたり、1941～68年には同音楽院院長。日本人の生徒には江藤俊哉、鈴木秀太郎など。なお、ジンバリストと同じアウアー門下で大正時代に来日したヴァイオリニストには、ミッシャ・エルマン（1891～1967年。1921、37年来日）、ヤッシャ・ハイフェッツ（1901～87年。1917、23、31、54年来日）などがいる。

「エフREM・ジンバリストが初めて日本に来たのは大正十二年〔注・正しくは大正11年〕の五月であつた。その時知り合つて以来ジンバリストは私の親しい友となつた。彼は同じアウアーの門下でも、エルマンのやうに派手な弾き方の提琴家ではない。然しその技倆は素晴らしいもので、地味な演奏には汲めども盡きない味がある。」

（徳川頼貞『薈庭樂話』私家版, p. 276-277 / 普及版, p. 237）

「1924年のこと、久邇宮朝融王がジンバリストに、わずか18音の日本民謡の旋律 [a Japanese folk melody] をくださった。曲を気に入ったジンバリストは、その旋律を発展させて彼の作品でもっとも愛らしい小品《日本の主題による即興曲》を作った。」

（Roy Malan, *Efrem Zimbalist: A Life*, p. 191）



<原曲は？>

当時の批評より

- 「日本的に旋律を巧みにあつたもので、思つたより愉快的な小品でした。日本を題材にした外人の作曲で、最も優れたものであることはいふまでもありません。」（あらえびす 報知新聞）
- 「何となく所期を裏切られた。「氏はよく日本を理解して居る」と聽かれて居るだけそれだけ物足らなさを感じしめられ […後略]」（都新聞）
- 「可なり面白いものであるが、やはり他の多くの外國作曲者と同じく其モチヱのとり方が餘りに淺薄であるのは惜しかつた。兎もすると「支那街」の一角を思はせるところがある。」（小松耕輔 東京朝日新聞）